



青森県感染症発生情報 (2017年第26週)

I 第26週の発生動向 (2017/6/26~2017/7/2)

1. 感染性胃腸炎については、むつ保健所管内で第25週から**警報**が続いています。県全体の定点当たり報告数が過去5年間の同時期と比較して、3週連続でかなり多くなっていますので特に注意が必要です。
2. 流行性耳下腺炎については、むつ保健所管内で**注意報**が**解除**されましたが、上十三保健所管内とむつ保健所管内で定点当たり報告数が多い状態が続いていますので、引き続き注意が必要です。
3. 手足口病については、東地方+青森市保健所管内で定点当たり報告数が前週の0.13から2.00に増加しました。
4. マイコプラズマ肺炎については、すべての保健所管内から患者が報告され、県全体の定点当たり報告数が2週続けて増加しました。
5. インフルエンザについては、三戸地方保健所+八戸市保健所管内と上十三保健所管内で、患者報告が続いています。なお、インフルエンザの迅速診断キットによる型別の報告はB型21人でした。

II 第26週五類感染症定点把握

※記載データは、速報値です。

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

	東青 (東地方保健所+ 青森市保健所)		中南 (弘前保健所)		三八 (三戸地方保健所+ 八戸市保健所)		西北 (五所川原保健所)		上北 (上十三保健所)		下北 (むつ保健所)		青森県計		前週からの増減																	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点																		
小児科 内科	インフルエンザ															21	0.32	-16														
小児科	RSウイルス感染症															2	0.25	1	0.11			4	0.44			2	0.33	2	0.50	7	0.17	1
	咽頭結膜熱															4	0.50	3	0.33	4	0.40	8	1.60	5	0.83	1	0.25	25	0.60	6		
	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎															11	1.38	10	1.11	20	2.00	8	1.60	8	1.33	7	1.75	64	1.52	-1		
	感染性胃腸炎															51	6.38	37	4.11	68	6.80	52	10.40	14	2.33	51	12.75	273	6.50	-41		
	水痘															3	0.38	2	0.22	3	0.30			3	0.50	2	0.50	13	0.31	4		
	手足口病															16	2.00	2	0.22	11	1.10			5	0.83	1	0.25	35	0.83	21		
	伝染性紅斑															3	0.38											3	0.07	1		
	突発性発しん															2	0.25	4	0.44	7	0.70	2	0.40	5	0.83	2	0.50	22	0.52	-1		
	百日咳																														0	
	ヘルパンギーナ																	7	0.78							3	0.75	10	0.24	4		
眼科	流行性耳下腺炎																		6	0.60	3	0.60	13	2.17	5	1.25	27	0.64	-17			
	急性出血性結膜炎																														0	
	流行性角結膜炎															1	0.50	1	0.33	1	0.50								3	0.27	1	
基幹	クラミジア肺炎																														0	
	細菌性髄膜炎																															-1
	マイコプラズマ肺炎																	1	1.00	2	2.00	1	1.00	1	1.00	4	4.00	9	1.50	2		
	無菌性髄膜炎																														0	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)																					4	4.00					4	0.67	-2		

は警報、 は注意報。「空欄」:患者報告無

感染症の窓

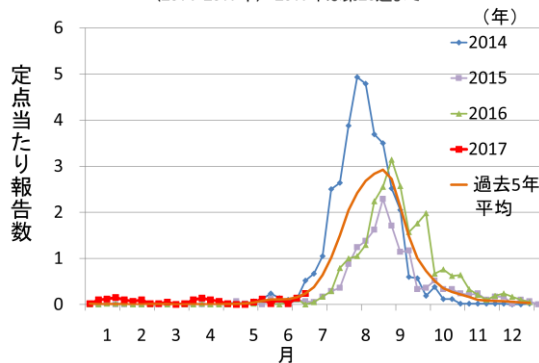
ヘルパンギーナ (五類定点把握対象疾患)

ヘルパンギーナは、夏場に乳幼児や子供にはやりやすいウイルス性の感染症で、いわゆる「夏かぜ」の代表的な疾患です。ヘルパンギーナを引き起こす病原体はコクサッキーウイルスというウイルスがほとんどで、38~40℃の急激な発熱と咽頭や軟口蓋の炎症、水疱を特徴とします。一般的に2~4日で解熱し、予後は良好ですが、まれに髄膜炎、心筋炎を起こし、高熱のため熱性けいれんを起こすこともあります。2016年に青森県内で報告された患者の約9割が5歳以下で、1歳代が最も多くなっていました。青森県では例年、6~10月にかけて流行しています。現在のところ、2017年は、青森県内では大きな流行は見られていませんが、第25週から県全体の定点当たり報告数が2週続けて増加しました。例年、国内での流行は西から東へと推移するため、今後の発生動向に注意が必要です(図)。

ヘルパンギーナに特異的な治療法はなく、対症療法のみであり、高熱に対し熱を下げたり、時には脱水に対する治療を必要とすることもあります。ヘルパンギーナは、急性期には、のどからウイルスが排泄されるため、咳をしたときのしぶきにより感染します。急性期~回復期(発症後4週間後ごろまで)には、便からウイルスが排泄されるので、汚染された手や飲食物を介して感染する場合があります。そのため、基本的な予防策として**マスクの着用・手洗い・うがい**が重要です。

○詳しい情報はこちらをご覧ください [ヘルパンギーナとは \(国立感染症研究所 HP\)](#)

青森県のヘルパンギーナ 定点当たり報告数
(2014-2017年) 2017年は第26週まで



Ⅲ 全数把握疾患

- ・結核（二類全数把握対象疾患）：青森市1人、弘前1人、八戸市1人、五所川原1人（2017年計：150人）
- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類全数把握対象疾患）：青森市1人（2017年計：7人）
- ・つつが虫病（四類全数把握対象疾患）：弘前1人、上十三1人（2017年計：8人）

Ⅳ 病原体検出情報 ※（ ）内は、検査材料及び検体採取日です。

熱性けいれん患者（咽頭ぬぐい液、6/13）・・・ヒトライノウイルス A：八戸市1人
 感染性胃腸炎患者（腸内容物、6/15）・・・ノロウイルス GII.2 及びアデノウイルス 2型：むつ1人
 下気道炎患者（咽頭ぬぐい液（鼻汁）、6/16）・・・アデノウイルス 2型：八戸市1人

Ⅴ 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2017年第23週～2017年第26週）

週	期間	東青 (東地方保健所+ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (三戸地方保健所+ 八戸市保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
23	H29.6.5 ~ H29.6.11		つつが虫病1人 梅毒1人	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感 染症1人			
24	H29.6.12 ~ H29.6.18	E型肝炎1人	A型肝炎1人	侵襲性肺炎球菌感 染症1人 梅毒2人		腸管出血性大腸菌 感染症1人 梅毒1人	
25	H29.6.19 ~ H29.6.25			つつが虫病1人 カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感 染症1人			
26	H29.6.26 ~ H29.7.2	腸管出血性大腸菌 感染症1人	つつが虫病1人			つつが虫病1人	

Ⅵ 結核(二類全数把握疾患)（2017年第23週～2017年第26週）

(人)

週	期間	東青 (東地方保健所+ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (三戸地方保健所+ 八戸市保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
23	H29.6.5 ~ H29.6.11		4	1	1	1	
24	H29.6.12 ~ H29.6.18	1	2		1		
25	H29.6.19 ~ H29.6.25	2	2	1	1		1
26	H29.6.26 ~ H29.7.2	1	1	1	1		

Ⅶ 全数把握疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2017年第25週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	オウム病
累積報告数	10547	2	71	704	16	7	173	153	14	10

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	ジカウイルス感染症	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症	ポツリヌス症	マラリア	ライム病
累積報告数	1	37	1	91	84	89	1	1	17	2

分類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	1	608	2	520	142	688	347	7	90	298

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
累積報告数	646	34	188	12	1921	143	2456	70	40	44

分類	五類	五類	五類
疾病名	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	46	162	12

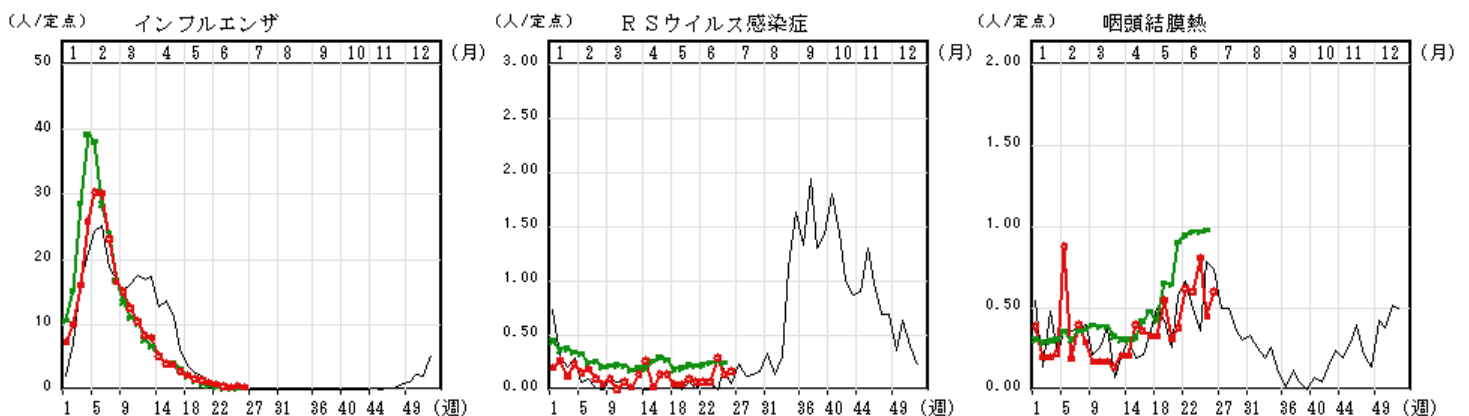
青森県（2017年第26週までの累計）

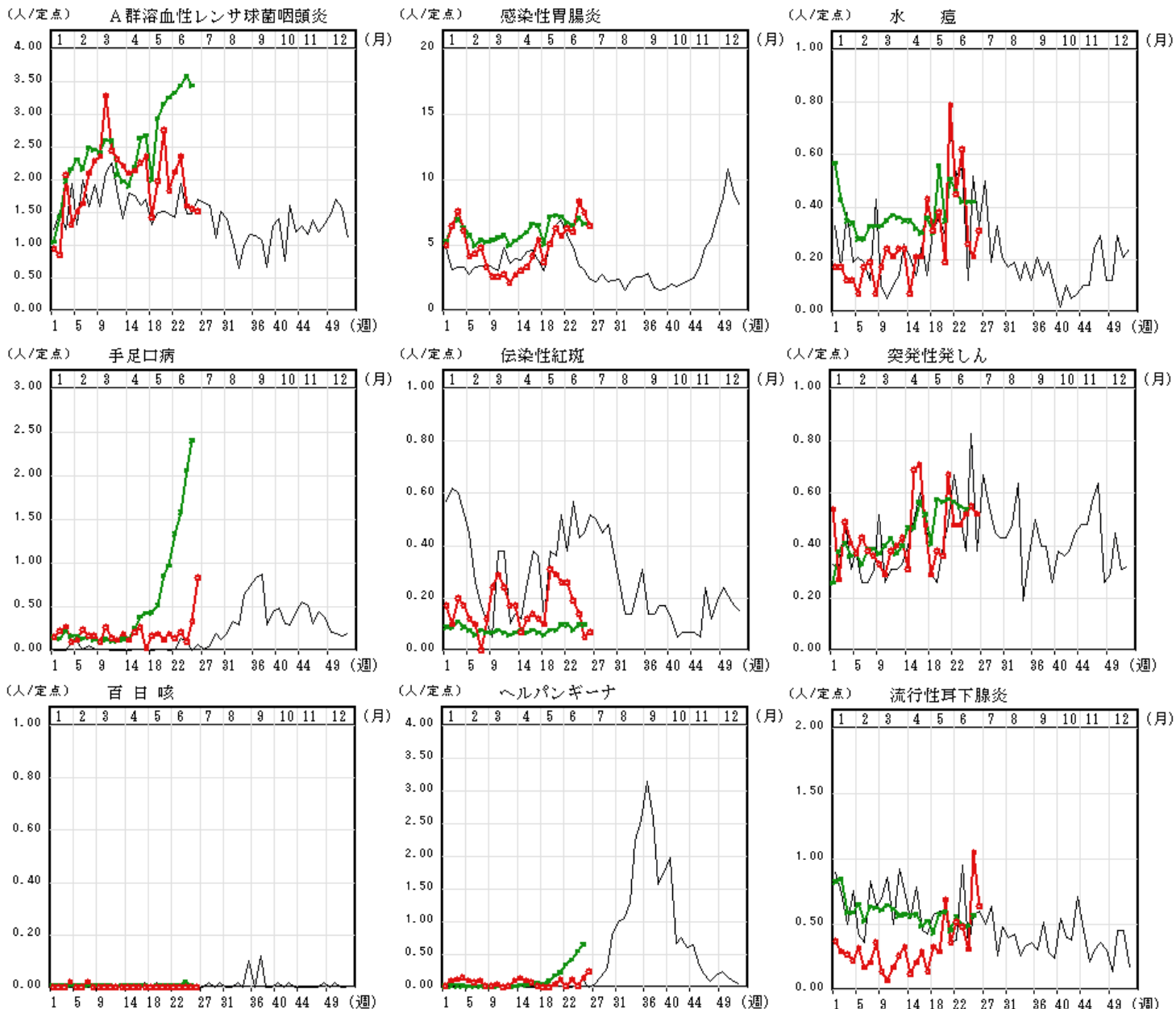
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	150	7	5	2	8	6	2	9	1	2

分類	五類	五類	五類
疾病名	後天性免疫不全症候群	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒
累積報告数	5	8	38

Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移（2017年第26週、ただし全国は前週）

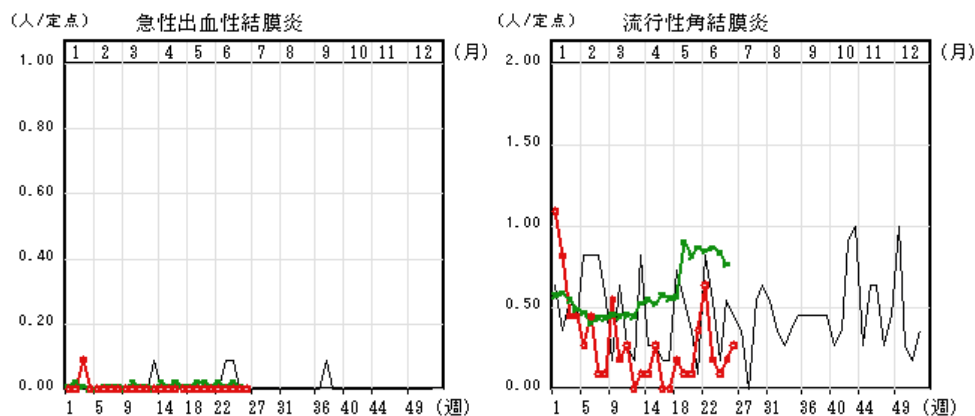
グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、×——×は2017年全国





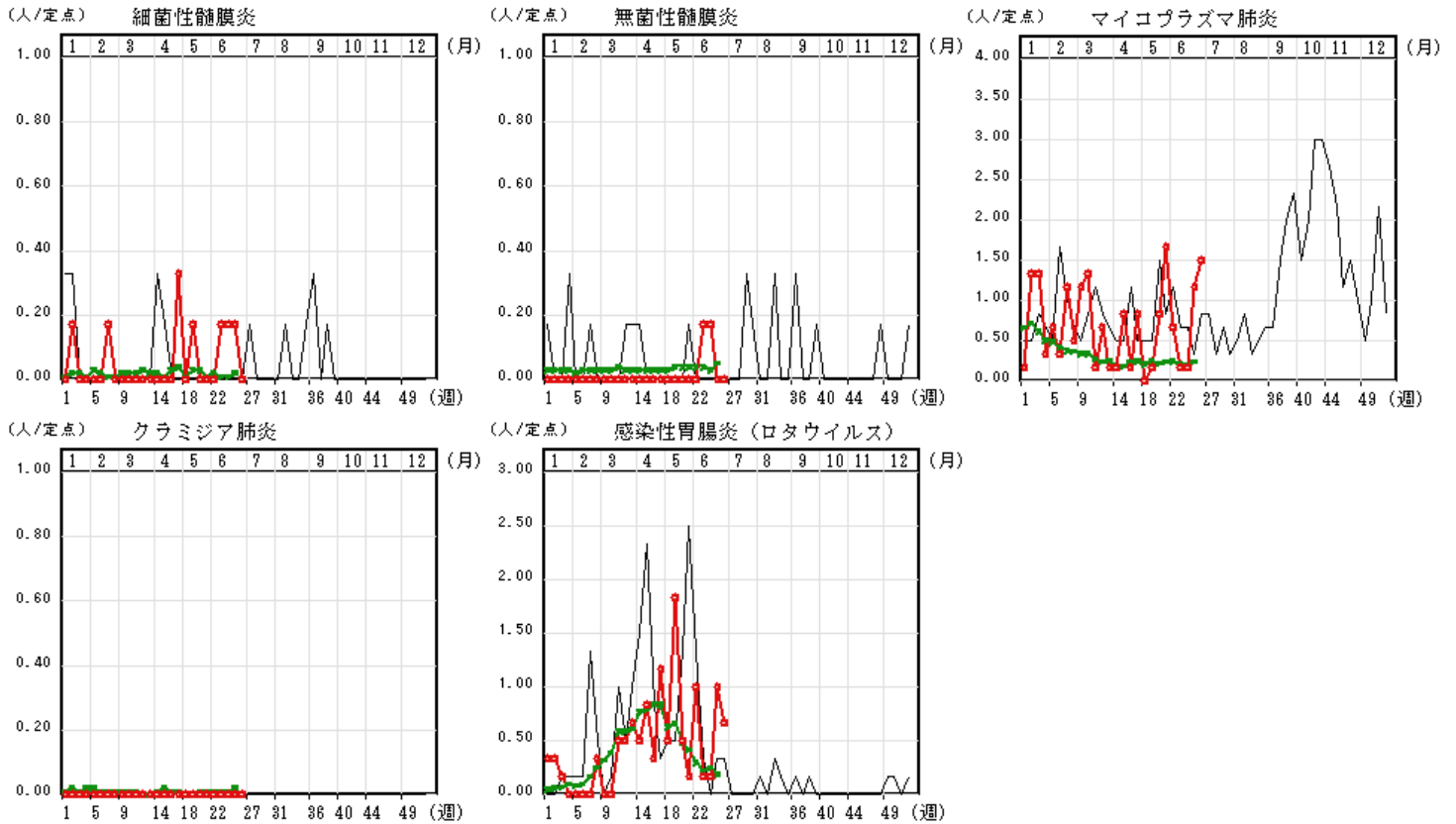
IX 眼科定点把握疾患週別推移 (2017年第26週、ただし全国は前週)

グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、 ×—×は2017年全国



X 基幹定点把握疾患週別推移 (2017年第26週、ただし全国は前週)

グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、 ×—×は2017年全国



XI 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

平成29年第26週
報告はありませんでした。

平成29年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	計 (施設別)
		1-4週	5-8週	9-12週	13-17週	18-21週	22-25週	26週	
介護・老人福祉関係施設	件数	0	1	0	0	0	0	0	1
	発症者数	0	12	0	0	0	0	0	12
児童・婦人関係施設等	件数	1	2	1	0	2	0	0	6
	発症者数	13	48	14	0	44	0	0	119
障害関係施設	件数	0	1	0	1	0	0	0	2
	発症者数	0	43	0	38	0	0	0	81
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0
計(月別)	件数	1	4	1	1	2	0	0	9
	発症者数	13	103	14	38	44	0	0	212